

2002年秋季特別展覧会 天草・島原の乱

徳川幕府を震撼させた120日

2002年10月25日(金) 11月24日(日)

寛永14年(1637)10月、一発の砲声が海を越えて肥後熊本に響き渡った。これが、120日間に及ぶ動乱の始まりだった

天草・島原で起こった武装蜂起は、熊本をはじめ、近隣諸藩に衝撃を与えます。乱平定のため九州諸藩に動員がかけられ出兵人数は12万人を越えました。肥後細川藩は、2万人余りの兵を天草・島原に派遣しました。この展覧会では、肥後細川藩を中心に天草・島原の乱を取り扱います。

天草・島原の乱やキリスト教禁止政策に関わる絵画、絵図、古文書、武器・武具など、重要文化財10点を含む112点を展示します。

乱の発生

天草・島原の乱は、寛永十四年(一六三七)十月に起こりました。乱の直接のきっかけは、キリストの取り締まりを行った島原藩口の津の代官林兵左衛門が信者に殺されるという事件でした。この事件を発端に、一揆は、旧領主有馬家の遺臣、土豪、農民を糾合し、二万人を越える大軍となり、領主松倉勝家の居城島原城を攻める勢いになりました。また、天草でも連動して一揆が起こりました。当時の天草は、唐津藩主寺沢堅高の飛び地でした。このように一地方で起つた事件は、幕府を震撼させる大一揆へと発展していったのです。



聖母像(親指のマリア)
東京国立博物館所蔵 17世紀後期
国指定重要文化財

禁じられたキリスト教

乱が多くの人々を結集したのは、領主松倉氏の苛政に対する農民の抵抗と、キリスト教への信仰があつたからです。一揆側は、キリスト教に結集の論理を求め、幕府側もこの反乱をキリスト一揆としてとらえました。天草・島原の乱において、この「キリスト教」が重要な要素となり、乱後の幕府の政策にも大きな影響を与えることになりました。

開幕当初、徳川幕府はキリスト教を容認していましたが、慶長十七年(一六二二)禁教の方針を打ち出すと、宣教師や信徒に対してさまざまな弾圧を加えるようになりました。



真鍮踏絵 キリスト像(十字架上のキリスト)
東京国立博物館所蔵 17世紀
国指定重要文化財

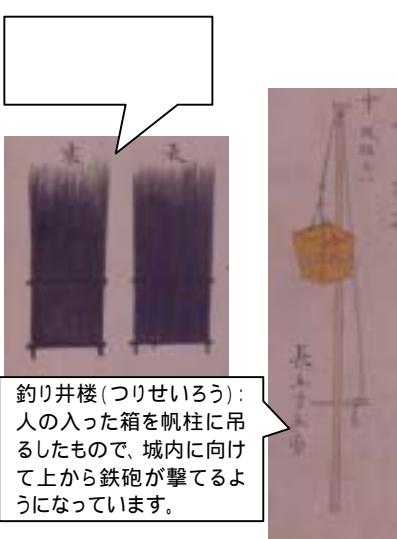
一揆勢、原城に籠城する

原城は、島原半島南部(長崎県南高来郡)に位置する旧領主有馬氏の城です。松倉氏が領主となつた後は、廃城となりました。天草と島原の一揆勢は、寛永十四年(一六三七)十一月の終わりから原城に集結し、幕府軍を迎撃しました。幕府は、板倉重昌を上使として派遣し、島原・佐賀・久留米・柳川藩の兵を以って原城を攻めさせますが、一揆勢の強い抵

踏絵は、キリストを探し出すために用いられたもので、長崎で始まりました。肥後細川藩では、長崎から踏絵を借り受けるなどして、早い時期から取り入れました。初めは元信者を対象に行われていましたが、後には武士を除く全領民を対象に実施されるようになりました。

幕府軍の原城包囲

寛永十五年(一六三八)一月、九州諸大名軍が原城に集結します。上使松平信綱は、仕寄を進めることを第一とし、道築山、井戸、竹束の設営を行い、周到な城攻めの準備を指揮しました。



釣り井楼(つりせいろう):
人の入った箱を帆柱に吊るしたもので、城内に向けて上から鉄砲が撃てるようになっています。



島原木図幟馬印之図
(永青文庫所蔵)より

抗に会い、なかなか落とすことができませんでした。

度重なる敗戦のなか、幕府は新たに上使として松平信綱を派遣し、九州諸大名に出軍を命じました。これにより、細川(肥後熊本藩)、黒田(筑前福岡藩)、鍋島(肥前佐賀藩)、立花(筑後柳川藩)、有馬(筑後久留米藩)、有馬(日向延岡藩)の軍勢が動員されることとなりました。

原城総攻撃 寛永15年2月27日～28日

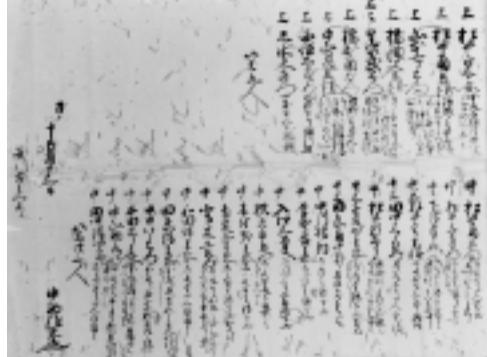
一ヶ月以上もの間原城を包囲し続けた幕府軍は、寛永十五年二月二十八日に総攻撃の日と定めます。ところが、二の丸方面を担当した鍋島軍が抜け駆けしたため、予定より一日早い二十七日に戦闘が始まりました。城乗りは、三の丸・二の丸・天草丸の三方面に分けられ、細川・立花軍が三の丸、鍋島軍が二の丸、黒田軍が天草丸へと乗り込みました。戦闘は翌日まで続き、多くの犠牲者を出して、落城しました。一揆勢はその多くが命を失ったといわれており、原城跡からは、現在もなお多くの遺骨が出土しています。



島原城攻撃圖
東京国立博物館所蔵 寛永18年(1641)力

細川家と天草・島原の乱

天草・島原に隣接する肥後細川藩は、一万八千人余りを乱平定のために動員しました。これは鍋島軍に次ぐ大軍であり、原城の戦いでは、中心的役割を果たしました。二月二十七日の総攻撃では、三の丸から城に乗り入れ、本丸一番乗りを果たし、天草四郎の首を取る働きをしました。八代からは藩主忠利の弟立允が出陣しました。また、のちに八代城主となる松井興長・寄之父子も出陣しています。



有馬陣戦功の者書付
松井文庫所蔵 寛永15年(1638)
原城攻めにおける松井家臣の戦功を記したもので、上々、上、中の上、中と評価付けがされています。



原城跡出土品(南有馬町教育委員会所蔵)
左:十字架 右:メダイ
原城跡からは、当時の遺品が見つかっています。メダイは、遺骨の歯の近くにあり、口にくわえて死んでいったのではないかと考えられます。



沢村大学画像
成道寺所蔵 正保2年(1645)
細川家臣沢村大学の島原出陣の姿を描いたものです。



銀札啄木糸射向紅威具足
永青文庫所蔵 江戸時代前期
細川忠利が島原で着用したと伝えられています。

ポルトガル船の来航禁止

寛永十六年(一六三九)、幕府はポルトガル船の来航を禁止します。天草・島原の乱の勃発によって、ますますキリスト教を恐れるようになつた幕府は、布教を止めないポルトガル人をこのまま日本に置いておくことはできないと判断したのでした。当時ポルトガル＝イスパニア勢力は、東南アジア海域で大きな力をついていました。このため、ポルトガルに対する関係になつた日本は、オランダを通じて輸入を行うようになり、日本人の海外進出を諦めたのでした。天草・島原の乱は、百二十日間という時を越えて、

その後の幕府のあり方に影響を与えたのでした。



正保4年ポルトガル船入港ニ付長崎警備圖
長崎県立長崎図書館所蔵 大正時代模写
正保4年(1647)、国交回復を求めてポルトガル船が長崎に来航します。幕府は港を閉鎖し、ポルトガル船を追い返しました。

- 利用のごあんない -

開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日
祝日の翌日(10/28、11/5、11/11、11/18)
入館料 一般600(480)円、高大生400(320)円、
小中生200(160)円
()内は20名以上の団体料金
11月3日(文化の日)は入館無料
毎週土曜日は市内の小中生無料
友の会会員の方は会員証でごらんいただけます。

- 特別講演会 -

10月26日(土)「吉村豊雄先生(熊本大学文学部教授)
11月16日(土)「服部英雄先生(九州大学大学院比較社会文化研究院教授)
いずれも13:30～博物館講義室にて 聴講無料